

二〇一九年六月一日（参加者二五名）

小湊を出てゆく漁船明易し	智恵子
旅の夜の語らひつきず明易し	わかば
明易や外湯めぐりの下駄の音	菜々
跡継ぎの生れて父祖の地麦の秋	菜々
気にかかる夢の顛末明易し	たか子
麦秋を一瞬に過ぐ新幹線	三刀
明易やしきりに鯉の跳ねる音	満天
明易や看取りの母の手を握り	よう子
麦の秋札所詣での鈴つづく	菜々
コンバイン幾何模様描く麦の秋	よう子
枕辺に旅鞆おき明易し	董雨
麦を踏むみな後ろ手にひと並び	たか子
母に会ふ夢の途中や明易し	よし子

寝返りのできず看護の明易し
うつぎ

明易や沖にちらば漁船の灯
やよい

麦秋を通過す貨車のなほ続く
よし女

露天の湯いま我独り明易し
宏虎

ほっほつと残る門灯明易し
明日香

麦秋の空高く舞ふこうのとり
こすもす

明易の舟屋は何処もがらんど
うつき

明易しおしゃべり止まぬ軒雀
満天

WEB句会みのる選・二〇一九年六月一日